

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医のカルテ



82



やまむね動物病院長  
(富山市中川原)  
山田 武文

猛烈な暑さの夏も終わり、涼しくなってきましたが、皆さんの家の動物たちは元氣にお過ごしでしょうか。少し気が早いですが、今回は寒い時期に増える病氣や事故についてお話したいと思います。

一つ目は泌尿器疾患、おしっこの問題です。動物も寒いとあまり動かず喉が渇きにくくなるので、水を飲む量が減り、尿の量と回数も減ります。その結果ぼうこう内の尿がよどみ、細菌の繁殖や尿結石の発生を許してしまい、ぼうこう炎を起こしやすくなります。対策は、冷たい水道水は電子レ

冬に起こりやすい問題



常に快適な室温に

泌尿器疾患・感染症・やけど…

ンジで少しぬるくしてあげる、水の入れ物の数を増やす、ドライフードを水でふやかすなど。とにかく水分摂取量を増やすことが有効です。

外でしかトイレができないワンちゃん、雪の日であっても小さなシンドで少しぬるくしてあげる、水の入れ物の数を増やす、ドライフードを水でふやかすなど。とにかく水分摂取量を増やすことが有効です。

めに外に出して排尿をさせてあげてください。猫ちゃんは尿の色、回数、臭いに注意を払ってください。ぼうこう結石が尿道に詰まると急性腎不全を引き起こし、処置が遅れると命を落とす危険性もあります。結石対策がしっかりされた要です。

質の良いフードを選んでください。

四つ目は暖房器具によるやけどです。石油ストーブ、ファンヒーターはもちろん危険ですが、湯たんぽやホットカーペットに長時間接触していると低温やけどになってしまうこともあります。特に認知傾向があったり、寝たきりだったりする場合は要注意です。

二つ目は感染症の問題です。冷たい空気や乾燥した空気は目、鼻、喉の粘膜を弱くするので、細菌やウイルスが侵入して悪さをしやすいくなります。部屋の温度・湿度を常に快適に保ち、定期的にワクチンを接種することが大切です。

他にも心臓病、甲状腺ホルモンの病氣なども挙げられます。いつもと様子が違うなど感じたなら、早めにかかりつけの病院に相談してください。

三つ目は関節の問題です。寒いと散歩がおっくうになり、雪が積もると外出しない日も多くなりま

す。その結果運動不足になり、筋力の低下、関節の動きの悪化の原因になります。散歩に行けない分おもちゃを使って家の中で遊んであげること、普段からきちんと体重管理をして太らせないことも重要です。